

2024年第34週の報告です。医療機関の夏季休診が明け、疾患の報告数は全体的にやや増加しています。

手足口病は今週も警報レベルが続いています。定点当たりの報告数は全国 3.87→4.24、京都府 2.04→3.56 になりました。京都市左京区と乙訓は、先週に定点当り報告数が一旦警報レベルより下回りましたが、今週再度警報レベルになりました。**水痘**は山城南が新たに警報レベルとなりました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は今週も減少しています。

全数報告対象の感染症は、**結核**が 8 件、**腸管出血性大腸菌感染症**が 2 件報告されました。**アメーバ赤痢・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**と**水痘（入院例）**が各 1 件、**梅毒**が 3 件報告されました。

また、基幹定点から**マイコプラズマ肺炎**が 12 件、眼科定点から**流行性角結膜炎**が 5 件報告されました。

梅毒の報告が、2018 年以降最多であった昨年度を上回るペース(週平均 2.8 名)が続いています。男性は 20-60 代、女性は 20 代に多くみられますが、10 代から 80 代まで幅広い年齢層で感染が報告されています。性的な接触などによってうつる感染症で梅毒トレポネーマという細菌の感染が原因です。「バラ疹」と呼ばれる淡い赤色の発疹をはじめ、全身に様々な症状が出る場合があります。数週間以内に症状が自然軽快することもあるため、発見が遅れることもあります。抗生剤が奏功しますが、治療が遅れたり放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症が生じることがあります。また妊娠中の感染は死亡を含め子供に重篤な障害が出る場合があります。一度治癒しても繰り返し感染する可能性があります。感染のリスクがある方で少しでも気になる症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。また京都府の各保健所でも無料・匿名の検査を実施しています（要予約）。詳しくは下記ページをご参照ください。

* 府保健所等における梅毒等検査案内：

[\(検査項目は、HIV、性器クラミジア感染症、B 型肝炎、C 型肝炎、梅毒〈要予約〉\)](#)

* 梅毒に関する詳しい情報はこちら→[梅毒情報／京都府ホームページ \(pref.kyoto.jp\)](#)